

エネルギーを 学ぶ・伝える・考える



村山産業高校で栽培した酒米でつくる日本酒「花ひかり」の上槽（もろみを搾って酒と酒粕に分ける工程）報告会を行う生徒たち

1年生 自分の行動や思いを振り返り 自分を理解して将来を考える

村山産業高校のキャリア教育では、「総合的な探究の時間」を使い、学年ごとにテーマを設定して探究的な学びを積み重ねています。1年生のテーマは「自己理解」。これからスタートするキャリア教育をより充実したものとするため、中学時の「※キャリア・パスポート」を参考に、「自分を見つめる」として、これまでの振り返りや将来の進路について考え、3年間を通じた学習の着地点についてイメージをふくらませます。また、各学科が連携し、施設見学や体験を行い、地元の方々に講師として招き、農業や工業、商業の現状や未来について学びます。

「生徒たちが自信を持ってキャリア教育を進められるように、年々カリキュラムをブラッシュアップしてきました」と野崎先生は話します。

※児童生徒が小学校から高等学校までのキャリア教育に関する諸活動について、学習状況やキャリア形成について振り返り、自身の姿や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオ（一覧記録ファイル）のこと。2020年4月から日本全国の小・中・高校で導入

2年生 地元企業で就業体験 生徒たちが大きく成長

2年生のテーマは「自己啓発」。地元企業の協力を得て、生徒全員が「インターンシップ」を3日間経験し、地域産業で活かせる技術を身に付けるための資格取得に励みます。

受け入れ先となる企業の調査は、山形県産業教育振興会などが学校とタイアップし、受け入れ可能な企業をリストアップします。「就業体験に携わる地元の方々からは、学校と一緒に生徒たちを育てていきたいという熱意を感じます。非常にありがたいことですね」と野崎先生。

初めてインターンシップを体験する生徒たちは、学校の環境とはまた違う緊張感の中で、仕事の厳しさややりがいを感じています。「実際の職場で実務を見て、先輩社員の話を聞くことで仕事の内容を理解できます。そして何より将来のキャリアや、自分の適性を把握できることが最大のメリットです。どんな企業に就職したいのか、方向性が見つかった生徒の表情は輝いて見えます」と笑顔で話す廣瀬先生。インターンシップを通して、生徒たちは大きな成長を遂げます。

学校、地域、産業界が 一体となって行うキャリア教育

東を奥羽山脈、西を出羽丘陵に囲まれ、中央に最上川が流れる雄大な自然に囲まれた山形県村山市。2014年、旧村山農業高等学校と旧東根工業高等学校が統合し、「山形県立村山産業高等学校」が開校しました。同校は全国でも珍しい農・工・商を併設する高校で、農業科（農業経営科、みどり活用科）、工業科（機械科、電子情報科）、商業科（流通ビジネス科）の5学科があり、特色ある産業教育を展開しています。

同校が特に力を入れているのは、学校・地域・産業界が一体となって取り組む「キャリア教育」。生徒たちが卒業して社会に出たとき、さまざまな分野の仕事や人に関わることから、学科単体での学習ではなく、学科横断的に最新事情を学び、複雑化・高度化する地域産業のニーズに対応できる力を養います。教頭の野崎修先生と、教育企画情報部長の廣瀬僚太先生にお話を伺いました。

訪れた場所

山形県立村山産業高等学校
山形県村山市橋岡北町1-3-1



◀村山産業高校教頭の
野崎修先生



▶教育企画情報部長の
廣瀬僚太先生



6. 農業科学部では、地元農家の協力のもと、超促成栽培で8月上旬に里芋を収穫しました
5. 機械探究部が作った足踏み式の消毒スタンド。自動車のリサイクル部品を使って制作しました
6. 農業科と工業科は、さくらんぼの開花期に霜が降りないように「寒冷紗」というシートをかぶせる装置を考案



1. 3年生による課題研究発表会では、これまで取り組んできたテーマの研究成果をプレゼンテーションします
2. 農業経営科の生徒たちがオリジナルの日本酒を作るための酒米を育成。2023年度は約46アールの田んぼに山酒4号を作付けし、収穫しました
3. すべての学科が関わって完成した純米吟醸酒「花ひかり」。ラベルデザインは花と光のモチーフが使われています

地域への思いを深めた生徒たちは、部活動でも地域課題の解決に取り組みます。「農業科学部」が、山形の郷土料理「芋煮」の主役・里芋について県民にアンケートを実施したところ、「お盆に家族で芋煮を食べたいのに、8月は里芋の収穫期ではないので、新鮮な里芋が手に入らない」という声が多く寄せられました。

夏場に里芋の需要が高まっていることを知った生徒たちは、地元農家の協力を得な

地域課題の解決に取り組む 全国最高賞を次々受賞

地域への思いを深めた生徒たちは、部活動でも地域課題の解決に取り組みます。「農業科学部」が、山形の郷土料理「芋煮」の主役・里芋について県民にアンケートを実施したところ、「お盆に家族で芋煮を食べたいのに、8月は里芋の収穫期ではないので、新鮮な里芋が手に入らない」という声が多く寄せられました。

夏場に里芋の需要が高まっていることを知った生徒たちは、地元農家の協力を得な

地域への思いを深めた生徒たちは、部活動でも地域課題の解決に取り組みます。「農業科学部」が、山形の郷土料理「芋煮」の主役・里芋について県民にアンケートを実施したところ、「お盆に家族で芋煮を食べたいのに、8月は里芋の収穫期ではないので、新鮮な里芋が手に入らない」という声が多く寄せられました。

夏場に里芋の需要が高まっていることを知った生徒たちは、地元農家の協力を得な

野崎先生は「六歌仙さんからも、米の品質が良いと好評をいただいています。これからも酒米の研究に励み、学科間の連携を強めながら続けていきたいと思っています」と話します。

地域課題の解決に取り組む
全国最高賞を次々受賞

地域への思いを深めた生徒たちは、部活動でも地域課題の解決に取り組みます。「農業科学部」が、山形の郷土料理「芋煮」の主役・里芋について県民にアンケートを実施したところ、「お盆に家族で芋煮を食べたいのに、8月は里芋の収穫期ではないので、新鮮な里芋が手に入らない」という声が多く寄せられました。

夏場に里芋の需要が高まっていることを知った生徒たちは、地元農家の協力を得な

3年生 地域や社会の課題を探究
将来の幅が広がる

高校生活の集大成となる3年生のテーマは、「自己実現」。具体的なビジネスプランを考えたり、商品を開発したりと、研究内容は学科によって異なりますが、共通しているのは、研究テーマの多くが「社会のために何かが必要か」「人のために役立つものは何か」など、地域社会に目を向けたものとなっていることです。「1年生からの学びの積み重ねや地域社会との関わりが、テーマ設定に表れています」と話す野崎先生。地元の企業や店舗、農家の方々と研究を進めることもあり、ここでも生徒たちは社会と関わりを持ちます。

卒業に近づく12〜1月には、各学科で課題研究発表会を行い、これまで取り組んできた研究成果をプレゼンテーションし、評価のフィードバックを受けます。廣瀬先生は「社会で必要な『課題を見つけて探究する力』が、キャリア教育で大きく育っています。進学を希望する生徒は、進学先の選択肢の幅が広がるなどの成果が見られます」と話します。

学科間、地域と連携した
オリジナルの日本酒づくり

地元企業との結びつきは、特産品開発の学習でも生きています。同校では「魅力あふれる学校づくり」の一環として、地域の企業とともに村山市の素材で特産品を開発するさまざまなプロジェクトを行っています。特にオリジナルの日本酒づくりに取り組む「花ひかりプロジェクト」は、同校を代表する取り組みの一つです。

同プロジェクトが始まったのは2017年。開校以来、農・工・商併設の利点を生かした商品を開発しようとアイデアを考える中で、旧村山農業高校が酒米「山酒4号」の品種改良に取り組んでいたことから、日本酒をつくるプロジェクトが始まりました。地元の酒蔵「六歌仙」とのコラボで、酒米は農業科、ラベルは商業科、ノベルティは工業科が作成し、純米吟醸酒の商品化が実現したのです。商品名は全校生徒から公募し、多くの候補の中から校歌の一節「花を大地に光を未来へ」を由来とした「花ひかり」に決まりました。「花ひかり」は2020年度の村山市ふ

身に付けてほしいのは「自信」 キャリア教育で成長し社会へ

キャリア教育を通して生徒たちに身に付けてほしいのは、社会に出るための「自信」だと野崎先生は話します。他学科や地域と関わりながらより深い専門的な知識・技術を習得し、さまざまな経験を積んだ生徒たちは、3年間のキャリア教育を通して先生たちも驚くほど成長し、社会や進学先へと旅立っていきます。

「1年生のときには消極的だった生徒も、3年生になるころには主体的に課題研究に取り組むようになります。自分たちで主体的に地域の課題を探り、解決方法を考え、実践しようと挑戦する姿を見ると、私たちも非常にうれしく思います」と廣瀬先生。野崎先生も「他学科の生徒に依頼するときも、『こういう目的のものを作りたい』『こういう動かし方をしたい』と具体的に話せるなど、自信をもって自分の意見を伝えられるようになりま

キャリア教育が文科大臣表彰受賞 これからも地域とともに

昨年、同校のキャリア教育は高い評価を受け、文部科学省の2023年度キャリア教育優良学校表彰で「文科大臣表彰」を受賞しました。開校から10周年を迎え、9月には記念式典も開催し、節目を迎えています。

「これからも学校全体が良い方向に変化できるように貢献していきたい。ここでの学びをきっかけに、より深く学びたいと考える生徒も増えているので、今後は進学につながるような仕組みも作っていきたくと考えています」と廣瀬先生。

野崎先生は「まずはキャリア教育を充実させて、地域の方々とともに生徒を育てていくという姿勢をこれからも続けていきたい。そして、地域との対話や協働を重ねて自分の特性を理解し、新しい価値を創造する力を育成するアントレプレナーシップ教育にも目を向けていきたいと考えています」と話します。

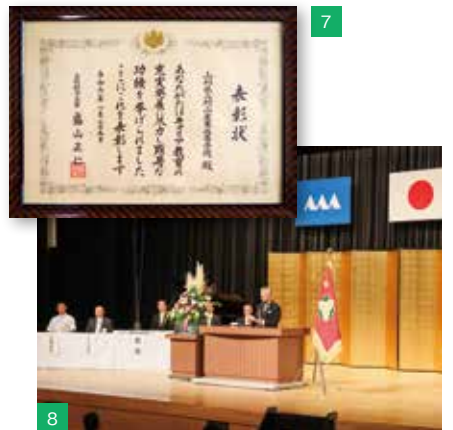
地域が育てた生徒たちが、未来の村山エリアをより盛り上げていくことでしょう。

キャリア教育への思い

校長 坂井孝朗先生

今、社会に開かれた教育課程が求められています。社会に開かれているということは、地域の課題を見つけて、探究して、解決していく糸口を学ぶということです。村山産業高校にも、学んだことを生かして、地域を支える人材になりたいと考えている生徒たちがたくさんいます。生徒たちが自分自身で考えることを大切にできるよう、

学校生活をサポートしていきたいと思っています。



7. 2023年度キャリア教育優良学校表彰で文科大臣表彰を受賞。探究的な学びを中心に据えたキャリア教育が評価されました

8. 9月27日に行われた開校10周年記念式典の様子